

## 第7回協働支援会議（第2回協働事業評価会）

令和元年7月23日(火)  
15時30分～17時00分  
本庁舎6階第4委員会室

### 1 開 会

### 2 議 事

#### (1) 協働事業評価書の作成について

ア 協働事業評価書について

イ その他

### 3 今後の流れについて

#### ① 第3回評価会（第8回協働支援会議）

令和元年8月2日（金） 14：00～16：00 本庁舎3階302会議室

※通知を机上配布しておりますのでご確認ください。

#### ② 区長に協働事業評価報告書を提出

令和元年9月9日(月) 区役所本庁舎3階

### 4 閉 会

#### 配付資料

[資料1] 協働事業評価点数表

[資料2] 協働事業評価書

[資料3] 協働事業評価基準

[資料4] 令和元年度新宿区協働事業評価報告書（案）

令和元年度協働事業評価点数表  
 地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト

【資料1】

●項目別評価

4＝優れている、 3＝適切である、 2＝課題はあるがほぼ適切である。  
 1＝不十分であり改善が必要 0＝その他

評価項目		評価指標
1 計画	①効果・成果の指標（成果を確認するための指標）の設定は適切か	1・ <b>2</b> ・3・4
	②29年度の問題点や課題を30年度の計画に反映しているか	1・ <b>2</b> ・3・4
	計画の評価	1・ <b>2</b> ・3・4
2 実施	①年間スケジュールに沿った実施がなされるか（なされていない場合は合理的な理由があるか）	1・2・ <b>3</b> ・4
	②意見交換や情報共有は十分に図りながら実施されたか	1・2・ <b>3</b> ・4
	③お互いの先駆性や専門性を活かした役割分担がなされたか	1・2・ <b>3</b> ・4
	④協働の効果を発揮した事業実施がなされたか	1・2・ <b>3</b> ・4
	実施の評価	1・2・ <b>3</b> ・4
3 結果	①効果・成果の指標は達成できたか（できていない場合は、合理的な理由があるか）	1・2・ <b>3</b> ・4
	②アンケート等により受益者の意見集約はなされたか	1・2・ <b>3</b> ・4
	③区民や地域社会への効果や成果が発揮できたか	1・ <b>2</b> ・3・4
	④地域課題や社会的課題への効果や成果が発揮できたか	1・ <b>2</b> ・3・4
	効果の評価	1・2・ <b>3</b> ・4
4 改善	①問題点や課題は適切に把握できているか	1・ <b>2</b> ・3・4
	②受益者の意見の分析や把握はできているか	1・2・ <b>3</b> ・4
	③課題に対する改善策の検討がされているか、適切な対策となっているか	1・ <b>2</b> ・3・4
	改善の評価	1・ <b>2</b> ・3・4

各委員の点数										平均点
4	3	3	3	3	2	2	2	1	1	2.4
3	3	3	3	3	3	2	2	1	1	2.4
3	3	3	3	3	3	2	2	1	1	2.4
4	4	3	3	3	3	3	3	2	2	3
4	4	3	3	3	3	2	2	1	1	2.6
4	3	3	3	3	3	3	3	2	1	2.8
4	3	3	3	3	3	3	2	2	1	2.7
4	3	3	3	3	3	2	2	2	1	2.6
4	4	3	3	3	2	2	2	1	1	2.5
4	3	3	3	3	3	3	2	1	1	2.6
4	3	3	3	3	2	2	2	1	1	2.4
3	3	3	3	3	2	2	2	1	1	2.3
4	3	3	3	3	3	2	2	1	1	2.5
3	3	3	3	3	2	2	2	1	1	2.3
3	3	3	3	3	3	3	2	1	1	2.5
3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1.9
3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	2.2

●総合評価

A（5点）＝協働事業として優れている  
 B（4点）＝協働事業として適切である。  
 C（3点）＝一部改善の必要があるが、概ね適切である。  
 D（2点）＝協働事業として改善が必要である。  
 E（1点）＝協働事業としては不十分である。

総合評価	A・B・ <b>C</b> ・D・E
------	--------------------

A	B	B	B	C	C	C	D	D	D	C
5	4	4	4	3	3	3	2	2	2	3.2

9項目	委員	各委員のコメント	コメントまとめ
1 計画	3 ①	・3年間を通じた、アウトカムの指標の整理が望まれます。	<p>本年度の計画策定にあたっては、前年度に指摘した「事業全体の進捗管理」や「目標達成に向けた課題・問題点の整理」が行われ、事業計画に反映されています。また、平成30年度は「ごっくんリーダーの活動継続」が課題の一つでしたが、リーダーのモチベーションを維持する「リーダーの集い」を計画に取り入れた点や、新たな指標として「最長発声持続時間」を設定こと、さらに、活動場所によっては使用できなかったDVDから、より安価で手軽に使用できるCDを作成することを計画に入れる等、工夫や改善も見られます。</p> <p>さらに、「講習会の参加」のみならず、「体操の継続及びごっくんリーダーの活動状況の確認」を成果を確認するアウトカム指標として設定するなど、効果測定を行う上での改善も見られます。</p> <p>一方、本年度は3年目の事業となることから、育成した「ごっくんリーダーに」ついて、今後どのようにフォローを行っていくか、更なる広がりをもって、どのように地域展開を広げていくのか、3年間を通じた「ごっくんリーダー」の活動状況や波及効果を把握して、アウトカム指標の整理を行う等、提案事業終了後を見据えた本事業の展望・展開を考えていく必要があります。</p>
	3 ②	・3年間の事業期間を通じた計画及び単年度の計画について、計測・評価可能な指標に基づくアウトプット・アウトカムの計画が設定されており、適切である。 ・計測コスト等の問題もあるが、「ごっくんリーダー」の実際の活動状況や波及効果も把握して計画ができるとなお良い。	
	1 ③	・他地区展開にあたり、既存実施分のデータが不足している（ないに等しい） ⇒問題点や課題点がしっかり把握できておらず、計画に反映されていない。 ・リーダーのその後の活動についての計画がほぼない。	
	3 ④	・1年目に課題・問題点として指摘された事業全体の進捗管理や目標達成に向けた課題・問題点も整理され、今年度の事業計画に反映されたことは評価できます。今後も課題の共有や解決に向けた話し合いを綿密に行い事業実施を行ってください。	
	3 ⑤	・ヒアリングにて、アウトカム指標が「呼吸値」であるならばフレイル対策にも繋がるため、今後の効果・成果に期待します。 ・平成30年度は「ごっくんリーダーの活動継続」が課題の一つでした。翌年、リーダーのモチベーションを維持する「リーダーの集い」として計画に取り入れたことは評価します。	
	1 ⑥	・ごっくんリーダー(ボランティア)の個別活動に対して、十分な把握、フォローがない？ ・ごっくんリーダー(ボランティア)の育成だけの活動となり、本来の目標である「高齢者が生涯に渡って口から食べられる街づくり」が忘れられている？ ・男性参加者が少ない事への課題意識が無く、対策も講じられていない ・区の助成があるにも関わらず、他の関連部門との連携が全くない	
	2 ⑦	・場所によって機器が整わず、使いづかったDVDであったが、より安価で手軽なCDに切り替えた点はよかった。ただ、一般への普及活動が十分とは言えず、設定したモデル地区での基盤づくりのための具体的計画設定が不十分であると感じた。値としての目標値の設定も重要ではあるが、内容の充実度の指標をたてて事業を実施しなければならないのではないのか。(例えば、「啓発イベント等1~2カ所地域で参加者20名」ではなく、前年度での課題を踏まえた上で具体的にどのような内容で実施するのか、再考していくべきではないのか。	
	2 ⑧	・本事業は講習会に参加してくれた区民が、その後も活動を継続してこそ事業目的が達成されることになる事業である。そうした観点から本事業を捉えた場合、「単発の講習会の参加」のみならず、アウトカム指標として「体操の継続及びごっくんリーダーの活動状況の確認」を効果(成果)を確認する指標として捉えていることは妥当である。 ・一方、相互検証シートにより、団体・事業課とも「いきいき体操」や「新宿100トレ」との違いや内容の周知不足ということも双方で捉えているのであれば、作成した2枚組のDVDと併せて、2019年度の事業実施案や契約書の仕様書にそのことを踏まえた区民に対する具体的な取組が記載されていれば、なお良かったと思う。	
	3 ⑨	・現時点では事業の推進基盤づくりが必要であることから参加者数やリーダー登録者数といったアウトプットによる成果目標でも適切であると考えますが、事業の進捗状況によりアウトカムの成果が必要となる。アウトカムについては、アンケート調査で最長発声持続時間を成果としているが、摂食嚥下機能の維持向上と発声持続時間との関連の説明が必要。	
	3 ⑩	・的確なアウトカム指標の設定は難しいと思うが、これまでのアウトプット指標に加え、委員からの指摘を踏まえ、新たな指標「最長発声持続時間」を設定している点は評価できる。 ・年間スケジュール作成など、前年度の反省を踏まえた計画となっている。	

項目	委員	各委員のコメント	コメントまとめ	
2 実施	3	①	なし	<p>3年目の事業ということもあり、NPO団体と区担当課がそれぞれの強みを活かしながら、協働して事業に取り組んでいることは高く評価できます。</p> <p>事業の実施にあたっては、団体と担当課の間で、「年間スケジュール」や「事業の進捗管理表」を作成するとともに、「事業推進のためのプロジェクト推進会議」を定期的開催し、積極的な情報共有や対等の立場で意見交換を行いながら、事業を進めてきた状況が確認できます。</p> <p>また、団体が進める手法によって、前年度よりリーダー発掘や地域での広がりが進むとともに、担当課の働きかけにより、区の進める他の施策（いきいき体操、100トレ）との融合が実現しており、互いの有する専門性を発揮し、協働による相乗効果が表れる取組となっています。</p> <p>「区民への普及啓発事業」、「講習会」等、いずれも当初の計画どおり事業を進めており、目標参加人数を大きく上回る実施状況や、関係諸機関との協働により、区内で行われるイベントへの参加等に繋がりができたことは、想定以上の効果が出たこととして評価できます。</p> <p>一方、受講者からのフィードバックの反映や、地域行事(祭り、納涼会、防災訓練等)を切っ掛けとした普及啓発活動の地盤づくり等、今後を見据えた取組を進めていくことが必要です。また、幅広い年代への普及を考えた際に、小学校での「ごっくん体操」実施については、「食育」や「福祉教育」などと合わせて行う工夫も必要であると考えます。</p>
	4	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年目の事業ということもあり、団体と区がそれぞれの強みを活かしながら、協働して事業に取り組んでいることは高く評価できる。情報共有や企画立案等も適切である。</li> <li>特に区の単独事業である「100トレ」とのコラボレーションなどは、お互いの事業の相乗効果が期待できる取り組みであり、区民にとっても有益だ。</li> </ul>	
	2	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業主の専門性が生かされ、協働により静かに認知度も高まっている様である。</li> <li>但し、実施側からの一方通行の印象が強く残る。</li> </ul> <p>現況、受講者側からの発信を受け入れる仕組みがないので、情報共有ができていない。</p>	
	3	④	年間スケジュール及び進捗状況等を記載した事業管理表を作成し活用したことで常に情報の共有が行われ、定期的な打ち合わせのほかに事業展開に応じた打ち合わせやメールや電話によるコミュニケーションを相互にとったことは評価できます。区民への普及啓蒙活動にあっても、関係諸機関との協働が区内で行われるイベントへの参加等に繋がりが予想以上の効果が出たことも評価できます。	
	3	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPOと区・担当課が連携し、担当課のネットワーク力を活かして関係機関の協力を得ながら参加者及び活動者の拡充のために様々な工夫を行ったことを評価します。</li> <li>小学校での「ごっくん体操」実施については、「食育」や「福祉教育」などと合わせて行う工夫も必要です。</li> </ul>	
	1	⑥	スケジュール自体の見直しが必要だったのだと思います	
	2	⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業スケジュールによると「地域行事(祭り、納涼会、防災訓練等)への参加により、地域特性把握、絆づくり地域への入り口を探る/更には普及啓発活動の地盤づくりを進める」となっているが、積極的に実施されたのかどうか、報告がないのでわからないが、実感としては私が住む地域では全くなされてなかったように思う。一部での、一時での活動では成されたとは言えない。</li> </ul>	
	3	⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働事業進捗管理シートに記載の事業の進め方と事業実績報告書を突合したが「事業推進のためのプロジェクト推進会議」や「区民への普及啓発事業」、「講習会」等、いずれも当初の計画どおり事業を進めており、目標参加人数を大きく上回る実施状況であることが確認できた。</li> <li>また、自己点検シートにおいても、対等な立場で意見交換を行っている状況や互いの専門性を発揮している状況等、双方が高い評価を行う中で、事業を執行していることが確認できた。</li> </ul>	
	2	⑨	検証シートに挙げられている課題はあるが、事業全体としては、計画どおり推進しているものと捉えている。	
	3	⑩	<p>ごっくんリーダーの数、広がりなど、想定以上の結果が出ている。団体と区の求めている姿は一致しており、十分な連携が図られている。</p> <p>団体が進める手法でリーダー発掘や地域での広がりが進み、担当課の働きかけにより他の施策（いきいき体操、100トレ）との融合が実現しており、協働の効果が表れている。</p>	

項目	期数	委員	各委員のコメント	コメントまとめ
3 結果	3	①	ごっくんリーダーに対するフォローアップの体制整備が望まれます。	<p>「講座等の開催数」や「参加者数」、「ごっくんリーダー」登録者数など、主要成果指標は当初の目標を大幅に超過達成しており、参加者の満足度も良好であり、高く評価できました。</p> <p>また、事業参加者に対するアンケートでは、講習会の内容の理解度や誤嚥予防に対する意識の変化等の効果測定も行われており、参加者から高い評価を得ている状況も確認できました。</p> <p>講習が行われる現場も一様ではなく、会場に合わせた対応が必要なことや、対象者の拡大に向け、デイサービスを支援している福祉職を対象に講習会を実施することによる元気高齢者以外の虚弱高齢者の参加を図る活動も評価できます。</p> <p>新宿区全体に対する効果となると、短期間では達成が困難な面もあるかもしれませんが、期待の持てる結果が示されたと評価します。</p> <p>一方、アウトカム指標として設定した「体操の継続状況」や「ごっくんリーダー」認定後の各リーダーの活動状況等、事業の実施結果について、十分に確認できていない部分もあります。</p> <p>また、アンケート結果からは、男性参加者が極端に少ないことが示されており、男性をいかに事業に参加させるかなど、本事業にさらに多くの人に関心を持ってもらうことが必要です。</p>
	4	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座等の開催数や参加者数、「ごっくんリーダー」登録者数など、主要成果指標は当初の目標を大幅に超過達成しており、参加者の満足度も良好であり、高く評価できる。</li> <li>アウトプットの結果が目標を大幅超過達成しているため、次の段階として、本事業がより区民や地域の健康増進に貢献できるよう継続的な取り組みを期待する。</li> </ul>	
	1	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及活動は、静かに広がりを見せていると思われる。</li> <li>人件費がかかっている割には、成果が出ていない。</li> <li>データ不足</li> <li>体操継続により、摂食・嚥下機能の維持向上の成果がわかるデータがない。</li> <li>⇒無関心の人、本当に必要な人へ活動が広がっていないことが危惧される。</li> </ul>	
	3	④	設定された目標(実施回数・参加者数・リーダー登録者数)を大きく上回り、またアンケートによる効果測定で、講習会の内容の理解度・誤嚥予防への意識変化等の確認を行ったことは評価できます。そして講習の行われる現場も一様ではなく団体の環境に応じた対応が必要であることに気づき、3年目の事業実施に向けて対応を検討されていることも評価できます。更に対象者の拡大に向け、デイサービスを支援している福祉職を対象に講習会を実施することによる元気高齢者以外の虚弱高齢者の参加を図る活動も評価できます。	
	3	⑤	参加者及び活動者ともに目標値を超える実績となりました。このことについては効果的に事業が実施されたと評価できます。	
	1	⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートは、「ボランティアになりたいか」が注視されており、受益者としての意見は注視されていないのではないのでしょうか。</li> </ul>	
	2	⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告会で説明があったように、リーダーは体操普及させる指導者ではなく、誤嚥の課題を啓発していく、多くの方に理解してもらうためのリーダーであるとしたならば、事業の目標値である「ごっくんリーダー」登録者数を大幅に上回った点は評価出来る。しかしながら、講習会参加だけで参加者に登録を呼びかけ、DVDやCDを配布して登録リーダーが目標を上回ったと喜べないのではないかと。その後のリーダーの活動状況も追わなくてはならないのではないかと。</li> </ul>	
	3	⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画時に設定した「講習会の回数・参加者」等の指標は達成できた状況が確認できたもののアウトカム指標として設定するとして「体操の継続状況」やごっくんリーダーとして認定後の「各リーダーの活動状況」まで確認するに至っていない中で事業を終了している状況にある。</li> <li>アンケート結果からは事業参加者の高い評価を得ることが確認できた。また、ヒアリングの中で、本事業に参加し、その後、この体操を継続している協働支援会議の一部の委員の声からも区民や地域社会への効果(成果)がある事業であることが確認できた。</li> </ul>	
	2	⑨	現時点では事業の推進基盤づくりが必要であることから参加者数やリーダー登録者数といったアウトプットによる成果目標でも適切で、この目標については、計画以上であるが、アンケート調査からは、男性参加者が極端に少ないことが示されており、男性をいかに参加させるかが課題である。	
	3	⑩	3年間の事業としての指標は十分達成できていると考える。 区全体、地域課題への効果となると短期間では達成困難であるが、期待の持てる結果が示された。	

項目	委員	各委員のコメント	コメントまとめ
4 改善	2	① 健康分野での協働事業なので、3年で結果を出すのは難しいのではと考えております。	<p>これまでの事業の実施状況や評価の内容等を踏まえ、さらなる普及のため、CDの作成や歌詞幕を追加するなど、創意工夫がなされていることが伺えます。</p> <p>また、定期的な講習会の実施を全区域的に行う検討に入ったことも事業改善の視点から評価できます。「ごっくん体操」を講習会時だけのもの終わらせないために、日常的に取り組める場を増やして行くことや「ごっくんリーダー」自身の自主的な活動を支援することで活動の場を広げ、その結果、継続的な取り組みが区内各地域に広がりつつあることも評価できます。</p> <p>ヒアリングの際に指摘された参加者の女性への偏りや、「ごっくんリーダー」の活動状況の把握、講座参加・普及活動のインセンティブ設計など、今後の事業改善に向けての課題についても認識されている状況が確認できました。</p> <p>一方、過去2年の事業の参加者に対して、その後の「ごっくん体操」の取組状況を確認し、フォローアップする取組や、「3 結果」欄にも記載した、男性の参加者が極端に少ない中で、男性の参加者を増やす取組や男性に体操を行ってもらうための仕掛けづくりを実施していくことが必要です。</p> <p>また、本事業が根付いていくためには、地域の中で活動する団体や他の関連部門との交流・連携を一層重ねていくことも求められます。</p> <p>さらに、今後、活動者に活動継続いただくためには「楽しい」「自分が必要とされている」と実感できるような活動内容の工夫が必要です。</p> <p>健康分野での協働事業でもあり、3年間で結果を出すのは難しい部分はあるものの、団体と区で知恵を出し合い、ヒアリングでの提案等も参考に更に改善を図っていただきたいと考えます。</p>
	3	② ・ヒアリングの際に指摘された参加者や「ごっくんリーダー」の女性への偏りや活動状況の把握、講座参加・普及活動のインセンティブ設計など、課題は適切に認識されているといえるが、現時点で有効な対応策が計画されているとは言い難い。団体と区で知恵を出し合い、ヒアリングでの提案等も参考に改善を図ってほしい、	
	1	③ ・啓発イベントやりっぱなしの感がぬぐえない。 ・イベント当日のアンケートだけでは、活動の広がりや定着がしっかり把握できない。 ・大多数を占めるリーダーを希望しない人（無回答）の声を具体的に拾って、課題解決に繋げる必要があると考える。	
	3	④ これまでの事業実施の中で分かったことを土台として、定期的な講習会の実施を全区域的に行う検討に入ったことは評価できます。「ごっくん体操」を講習会の時だけのものに終わらさないためにも日常的に取り組める場を増やして行くことや「ごっくんリーダー」自身の自主的な活動を支援することで活動の場を広げ、その結果継続的な取り組みが区内各地域に広がっていていることも評価できます。	
	3	⑤ 平成30年度の課題であるリーダーの活動継続について、「リーダーのモチベーションを維持するための集い」の開催につなげています。今後、活動者に活動継続いただくためには「楽しい」「自分が必要とされている」と実感できるような活動内容の工夫が必要です。	
	1	⑥ ・ごっくんリーダー(ボランティア)の個別活動に対して、十分な把握、フォローがない？ ・ごっくんリーダー(ボランティア)の育成だけの活動となり、本来の目標である「高齢者が生涯に渡って口から食べられる街づくり」が忘れられている？ ・男性参加者が少ない事への課題意識が無く、対策も講じられていない ・区の助成があるにも関わらず、他の関連部門との連携が全くない	
	2	⑦ 団体の活動拠点が新宿区ではないということが関係しているのかもしれないが、事業と地域が離れすぎているように感じられる。こういった高齢者の健康に関する事業は、もっと地域に寄り添い、頻りに交流しながら活動をしていかなければなかなか根付くものではないのかもしれない。然しながら、団体が持っている専門的知識はどんどん取り入れ、普及させていかなければ前進していかない。	
	2	⑧ ・団体・担当課とも課題として捉えている「周知不足」や「ツールの不足」については一定の改善が示されている。また、参加者が大きく女性に偏っている状況が、この間の事業実施の中で明らかになっているが男性の参加や男性に体操を行ってもらうための仕掛けづくりが具体的にイメージできていない。また、当初計画の時点から、アウトカム指標として「体操の継続」「ごっくんリーダーの活動状況の確認」を効果（成果）を確認する指標として捉えているのであれば、2017年度・2018年度の事業の参加者に対して、その後の「ごっくん体操」の取組状況を確認し、フォローアップする取組が事業の改善策として示してほしいところである。	
	2	⑨ 年間計画や周知、体操のできる環境づくりが課題として指摘されており、これらを解決していく必要がある。これらの課題をクリアし全区的な展開を期待したい。	
	3	⑩ 区民からの意見や現状分析により、さらなる普及のため、CDや歌詞幕の作成を追加するなど、創意工夫がなされている。	

項目	種別	委員	各委員のコメント	コメントまとめ
総合評価	B	①	所管課が協働事業終了後にどのように本事業を活用するのが見えていた方が、事業を評価する上で具体的に判断する材料になるのではないかと思いました。これからの活動に期待しております。	
	A	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢社会が到来し、「人生100年時代」への社会的な取り組みが進みつつある中、加齢とともに衰えがちである一方、人間が生きる上で欠かすことのできない「食べる力」をはじめとした健康増進を目指す本事業は、高齢者のQOLや健康寿命伸長にも貢献する重要な事業である。</li> <li>・3年度目となる今年度までに、普及ツールである体操やDVDといったコンテンツについては新宿区らしさも盛り込むながら完成に至り、講座やイベント等を通じた普及も順調に進んでいる。講座参加者数や「ごっくんリーダー」登録者数等の主要成果指標は目標を大幅に超過達成しており、高く評価できる。</li> <li>・団体と区との協働においても、定期的な会議等で情報共有を図り、相乗効果の見込める「100トレ」とのコラボレーションに取り組むなど、共に取り組む姿勢が評価できる。</li> <li>・今後は大きな成果を上げつつある本事業をより区民・地域に普及していくため、ヒアリングでも指摘のあった「ごっくんリーダー」のフォローや男性の参加促進、「健康ポイント制度」を活用したリーダー登録・普及活動のインセンティブ設計など、新宿区に根差した活動展開に向けて、団体・区ともに継続的な取り組みに期待したい。</li> </ul>	<p>超高齢社会が到来し、「人生100年時代」への社会的な取り組みが進みつつある中、加齢とともに衰えがちとなる一方、人間が生きる上で欠かすことのできない「食べる力」をはじめとした健康増進を目指す本事業は、高齢者のQOLや健康寿命伸長にも貢献する重要な事業です。</p> <p>3年目となる今年度までに、普及啓発活動の担い手となる「ごっくんリーダー」の登録者数は216名まで増えました。また、新宿区らしさも盛り込んだ「新宿ごっくん体操」のDVDやCDといったツールも完成し、講座やイベント等を通じた活動も地域的に広がりをもせ、NPO団体と区との協働による「区民の摂食嚥下機能向上のための基盤づくり」が順調に進んでいます。</p> <p>計画策定や事業実施といった場面においても、団体と区との間で「事業推進のためのプロジェクト会議」が定期的開催され、積極的な情報共有や意見交換が行われた結果、フレイル予防を目的とした「新宿100トレ」とのコラボレーションにも取り組むなど、高齢者のQOLや健康寿命伸長に向けて、共に取り組む姿勢が評価できます。</p> <p>さらに、「ごっくんリーダー」登録者数や講座参加者数の主要成果指標は目標を大幅に上回っていることや、アンケート結果では講座参加者から高い満足度を得られている点も高く評価できます。</p> <p>また、これまで取り組んできた「ごっくんリーダー」の増員や地域的な広がりに合わせて、今後は、リーダーの活動状況や、講座参加者のその後の活動を継続的にフォローし、摂食嚥下機能の維持向上に繋げていくことが大切です。そのためには、講習後のリーダーたちへの場の提供や講座参加後の活動データをしっかりと収集することも必要です。</p> <p>現在、高齢者の健康に関する様々な取組が、区や社会福祉協議会、地域のコミュニティ団体によって行われています。本事業で養成された「ごっくんリーダー」には、今後、一層、こうした取組と積極的な関わりを持つことを期待したいと考えます。また、男性参加者が極端に少ないことへの対応等の改善や、「ユーチューブの活用」や「健康ポイント」との連携等による、より多くの参加者を得られる更なる仕組みづくりについて期待しています。</p>
	D	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施3年目なので、「ごっくんリーダー」の増員・拡大よりも活動の定着や内容充実にも注力していただきたい</li> </ul> <p>&lt;ごっくんリーダー&gt; 登録数だけでなく、活動のデータをしっかりと収集し、事業の実質的な広がりや定着に繋げていただきたい。 活動していないリーダーは、その理由もヒアリングし、活動場所がないのであれば、場の提供の仕組みも考えていく必要があると考える。</p> <p>&lt;事業発展・定着のために&gt; 支援は、実際に必要な人に届かないことが多い。 本当に必要な人にしっかりと広がっていく事業として、頑張っていたいただきたい。 高齢者向けの事業ではあるが、若年層・子どもも一緒に取り組める仕掛けを考え、将来に繋げていただきたい。</p>	
	B	④	<p>地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト事業は順調に行われ、「ごっくんリーダー」の養成は予想以上の成果を収めました。「食べる力」推進は本当にできたのでしょうか。早期に検証を行って頂きたいと思えます。</p> <p>「ごっくんリーダー」の登録や講習会参加者が目標値を大幅に超え、区内各地域からの講習会依頼に対しても担当課と団体がお互いの強みを活かして役割分担を行い「ごっくんリーダー」とともに速やかな対応がなされることをお願いいたします。「ごっくん体操」が「新宿いきいき体操」、「新宿100トレ」と一体的に普及していくことで新宿区の健康への取り組みの相乗効果が期待されるものと思えます。</p> <p>今後は早期に「ごっくんリーダー」の活動状況を把握し効果のある活動は水平展開を図るとともにリーダー個人個人のレベルアップを図り地域差のない活動を目指してほしいものです。アウトカム指標として「ごっくん体操」継続及び「ごっくんリーダー」活動状況を設定されたのを機会に体操継続者を追跡調査して欲しいものです。</p> <p>そろそろ協働事業終了後の展開を考える時期になっていると思えます。</p>	

		<p>団体・担当課・「ごっくんリーダー」そして事業実施をサポートしてくれ関係機関も含めて話し合いを持つことが必要であると思います。今後も「ごっくんリーダー」が熱意をもって活動していくにはどうすればいいのか、またモチベーションをアップするにはどうすればいいのか検討して頂きたいと思います。</p> <p>最後に5月9日を新宿区「ごっくんの日」とし、全国に活動を発信するのは如何でしょうか。</p>
C	⑤	<p>「ごっくん体操」は、子どもから高齢者まで実践できる体操です。親しみやすい音楽に合わせて口を動かすことで口腔機能が向上され、誰もが気軽に参加できる健康増進ツールです。</p> <p>事業の計画としては、年間の取組みから出た課題を翌年に改善しようとする努力が伺えます。具体的には「リーダーの活動継続」の課題を「リーダーのモチベーションを維持するための集い」として翌年の計画に取り入れています。</p> <p>事業の実施及び結果については、区の担当課のネットワーク力を活かし、関係機関の協力を得て参加者及び活動者の拡充のために様々な工夫を行ったことで、目標値を超える実績となりました。このことについては効果的に事業が実施されたと評価できます。</p> <p>今後、町会や自治会、地域の方々の力を借り、多面的な角度からの意見を活かした事業を展開することで、地域での活動の場が拡大されるとともに区民の健康意識が向上されることが期待されます。参加者と活動者が一体となり、誰もが「楽しい」、「自分が必要とされている」と実感できる事業になることを期待します。</p>
D	⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操を活動の活動主体とされている事で、体操の見本となる講師と曲づくり、CDづくりに資金の大半が使われてきた事で満足されている感があります。</li> <li>・事業者の専門性も殆ど実感がありませんので、同事業を今後継続されるのであれば、事業者を専門企業に変えた上で区役所の関連部門との連携が重要だと考えます。</li> </ul>
D	⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前述の通り、高齢者の健康に関する事業は、どれだけ地域に寄り添っていかかが重要であると思う。今回のように、新宿区に活動拠点をもたない団体には、担当課だけではなく地域コミュニティ課も含め、行政からの積極的な情報の提供と事業サポートが必要となる。事業スケジュールにおいて「地域行事への積極的な参加による啓発活動」とあったが、区は各町会や地域での行事情報等は提供していたのか。団体が自ら情報を集めなければならぬのかもしれないが、協働事業とはお互いにサポートし合いながらより質の高いサービス提供をしていくことではないか。せっかく登録した200人超の「ごっくんリーダー」を活かすためにも、今後のリーダーたちが力を発揮できる場所の提供を望みます。地域の行事だけではなく、地域カフェや給食サービス、デイサービスなど、地域のそういった場は数多くあります。そこへ出向き、リーダーが中心となって利用者とともに嚥下機能支援の体操が出来るようになれば、この事業は大成功と言えるでしょう。そのためには、そういった情報を持っている行政や社協の今後の活動も注視していきたいです。</li> </ul> <p>※「3世代で楽しく一緒にできるごっくん体操を普及していく」という目標だったが、一度や二度保育園敬老の日イベントで実施したことで満足していいものか、…。さらに発展していける要素があるだけに、今後のあり方に期待します。</p>
C	⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体・事業課とも、よく協議・調整の上、本事業をこの間、進めてきていただいていることが伺える。事業者参加者の理解度・満足度は高く、</li> </ul>

		<p>体操前後の最長発生時間に変化もみられる等、具体的な効果もみられる事業であるが故に、事業参加者に継続してもらうこと、また、養成したリーダーが継続的に活動をしてもらえることが肝要である。先日のヒアリングの中でも、現在、健康部で実施している健康ポイント事業への組み込みやユーチューブの活用等、様々な意見もあった。本年度で3か年の事業は終了するが、事業終了までに、この2点をどう担保していくのか、その仕組みを考えていただきたい。</p>
C	⑨	<p>概ね計画どおり進められている。講習会参加者数やリーダー登録者数については、区民の関心が高く身近な問題として受け入れられ、大きく伸びたもの推測されるが、これにより、どのような効果（アウトカム）がもたらされたのか、または、期待できるのかをもう少し明確にしてほしい。</p> <p>男性参加者が極端に少ないことへの対応については、ぜひ、改善をお願いしたい。</p> <p>リーダーの育成と自主グループによる活動（モデルから全区へ）といった事業展開について、スキームとしての持続可能性や発展性の検証、協働事業の終了後の進め方など検討する必要がある。所管課としてどのように認識しているのかお聞かせいただきたい。</p>
B	⑩	<p>リーダーの数だけでなく地域での広がりも見られ、他施策との連携などによる今後の展開方法も検討されており、団体と区との協働による「区民の摂食嚥下機能の維持向上」に向けた普及啓発活動の基盤が出来上がったことは評価できる。</p> <p>今後は各リーダーの士気を高めつつ活動の継続・発展につなげて行くことが必要であり、「ごっくんリーダーの集い」を活用した取り組みなど、研修の継続や活躍の場の確保に期待する。</p>

## 個別評価基準(2年目以降用)

大項目	評価にあたっての主な着眼点	対象年度
計 画	効果・成果の指標(効果を確認するための指標)の設定は適切か	前年度の 事業内容
実 施	年間スケジュールに沿った実施がなされたか (なされていない場合は、合理的な理由があるか)	
	意見交換や情報共有は十分に図りながら実施されたか	
	お互いの先駆性や専門性を活かした役割分担がなされたか	
	協働の効果を発揮した事業実施がなされたか	
結 果	効果・成果の指標は達成できたか (できていない場合は、合理的な理由があるか)	
	アンケート等により受益者の意見集約はなされたか	
	区民や地域社会への効果や成果が発揮できたか	
	地域課題や社会的課題への効果や成果が発揮できたか	
改 善	問題点や課題は適切に把握できているか	
	受益者の意見の分析や把握はできているか	
	課題に対する改善策の検討がされているか、適切な対策となっているか	
計 画	前年度の問題点や課題を翌年度の計画に反映しているか	翌年度の 事業内容

4	優れている	当初の事業計画・目標以上の成果を上げたことが認められる
3	適切である	当初の事業計画・目標通りの成果が認められる
2	課題はあるがほぼ適切である	一部改善の必要があるが、概ね適切と認められる
1	不十分であり改善が必要	当初の事業計画・目標と比較して不十分であり、改善の必要がある
	その他	書類等で評価できなかった

## 総合評価基準

	指標	評価の目安
A	協働事業として優れている	当初の事業計画・目標を超えた成果が認められる
B	協働事業として適切である	当初の事業計画・目標通りに進んでおり、成果が認められる
C	一部改善の必要があるが、概ね適切である	一部改善の必要があるが、概ね適切と認められる
D	協働事業として改善が必要である	当初の事業計画・目標と比較して不十分であり、改善の必要がある
E	協働事業としては不十分である	不十分であり、継続には問題がある

(案)

令和元年度

新宿区協働事業評価報告書

(実施3年目)

(協働事業提案実施事業)

新宿区協働支援会議

# 「令和元年度 新宿区協働事業評価報告書」

## \*目次\*

	新宿区協働事業提案制度による協働事業の評価を終えて・・・・・・・・	2
1	協働事業評価の概要・・・・・・・・	3
2	評価の目的・・・・・・・・	3
3	<h1>現在調整中</h1>	
4		
5	協働事業評価実施事業・・・・・・・・	
6	協働事業の評価結果 地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト・・・	
	【参考資料】・・・・・・・・	
1	協働事業自己点検シート（様式）・・・・・・・・	
2	協働事業相互検証シート（様式）・・・・・・・・	
3	ヒアリング時提出資料 地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト・・・	

令和元年9月9日

新宿区長 吉住 健一 様

令和元年度実施の協働事業提案制度による協働事業について  
次のとおり評価しましたので、報告します。

新宿区協働支援会議 座長 藤井 浩司

協働支援会議委員（協働事業評価）

	委員の区分	氏名	職名
1	学識経験者	座長 藤井 浩司	早稲田大学政治経済学術院教授
2	非営利活動団体 構成員	座長代行 関口 宏聡	認定特定非営利活動法人 シーズ・市民活動を支える制度を つくる会 副代表理事
3		平野 覚治	一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事
4	区 民	土屋 慶子	公 募 区 民
5		石橋 明美	公 募 区 民
6		松井 千輝	公 募 区 民
7	区内事業所の 社会貢献部門 経験者	伊藤 清和	元富士ゼロックス東京（株） CSR部社会貢献推進グループ
8	新宿区社会福祉 協議会職員	長谷川 多賀子	新宿区社会福祉協議会事務局次長
9	区 職 員	平井 光雄	総合政策部長
10		山田 秀之	地域振興部長
11		高橋 郁美	健康部長 (事業担当部長)

## 新宿区協働事業提案制度による協働事業の評価を終えて

新宿区協働支援会議では平成18年3月に「協働事業提案制度の導入について」・「協働事業評価制度の導入について」の2つの報告書を取りまとめ、新宿区長に提出しました。協働事業提案制度は、この報告を受け、平成18年度から導入されたものです。

新宿区は、基本構想・総合計画でめざすまちの姿として『新宿力』で創造する、やさらぎとにぎわいのまち」を掲げ、5つの基本政策の一つとして、「暮らしやすさ1番の新宿」、また、その下の個別施策の一つとして、「地域の課題を共有し、ともに考え、地域の実情に合ったまちづくりの推進」を定めています。協働事業提案制度は、こうした基本政策等を達成するための具体的な取組みの一つであり、基本構想に掲げる「新宿力」を形づくる一つの手法として「地域の力」と「多様性」を活かす仕組みとなるものです。

協働事業が推進されることで、多様な主体が担い手となり地域を支える「よりよい地

域社  
を込  
うが  
に示  
ぞれ  
切で  
言  
度い  
大功  
まし  
実  
物が  
発  
な

# 現在 調整中

くり  
のよ  
区民  
それ  
が大  
9年  
つの  
施し  
成果  
及啓  
の更

今後も、区民の参画や地域との連携の下、協働のまちづくりが促進され、地域課題の解決が図られることで、多様な人々にとって新宿区がさらに暮らしやすいまちとなることを期待します。

本報告書は、新宿区協働事業提案制度実施要綱第11条第2項に基づき、新宿区長に報告いたします。

新宿区協働支援会議  
座長 藤井浩司

## 1 協働事業評価の概要

新宿区では、各主管課において多様な主体と様々な協働事業が進められており、平成29年度の協働事業進捗調査では、264に及ぶ事業が様々な協働形態で行われています。その中で、協働事業提案制度により平成29年度から実施されている「地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト」について3年目の評価を行いました。

事業の評価については、平成16年に策定した「地域との協働推進計画」が基本目標として掲げる「多様で新たな区民ニーズへの対応」や「区民の参画意識と主体的な区民活動の促進」、「行政の体質改善」に結びつく取組みになっているのか、また、「相互理解」、「自主・自立性」、「対等の関係」等、6つの「協働の基本原則」を十分踏まえ、事業の目標等が達成できたかといった点から評価を行いました。

協働の中身・質を高め、事業の目標や意図する成果を達成していくためには、協働の当事者が、互いにプロセスや成果を確かめ、議論し合い、相互検証を行うといった、一つひとつの経験を積み重ねていくことが大切です。そして、「計画」・「実施」・「結果」・「改善」といった各事業の場面における評価基準を定め、客観的にその取組みの評価を行い、実施の場面で改善に繋げていくことが必要です。

そのため、評価にあたっては、事業実施団体と区担当課が、協働事業の実施中に「協働事業自己点検シート」・「協働事業相互検証シート」を作成し、事業の振り返りのために自己点検及び相互検証を行いました。

これらの資料を基に、協働支援会議が事業実施団体と区担当課へのヒアリングを行い、第三者評価を実施しました。

事業の評価結果については、9頁以降に記載のとおりです。

## 2 評価の目的

協働事業の評価は、協働の意義を明確にするとともに、それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的として行います。

〈協働の意義〉

- ① 区民生活にとって効果的な事業を実施すること
- ② 協働を進めるNPO等と区が相互理解を進め、対等な関係を築いていくこと
- ③ 区民の主体的な活動を推進しコミュニティの形成につなげていくこと
- ④ 前例の踏襲や組織の縦割りの弊害など、これまでの区の仕事の内容や進め方を見直す契機とすること
- ⑤ 様々な主体の自立性を高め役割分担を明確にしていくこと
- ⑥ 協働事業を発展させ、住民福祉の維持向上と住民自治を推進していくこと
- ⑦ 区民ニーズに基づく予算化の優先順位をつけるための判断基準の一つにすること

### 3 評価の手法

#### (1) 評価の流れ

事業実施団体と区担当課がそれぞれ「自己点検シート」の記入を行い、双方の協力の下、「相互検証シート」を作成します。また、評価時点までの事業の実施概要の提出を求めるほか、受益者からの評価はアンケート等で把握します。

さらに、区民に対する実施事業の事業報告会に協働支援会議委員も出席して、事業の進捗状況等について確認を行うほか、必要に応じて事業視察も実施します。

これらを評価資料として、協働支援会議が両者にヒアリングを行い、評価を実施します。

#### (2) 評価の項目

2・3年目の評価については、「計画」・「実施」・「結果」・「改善」の事業プロセスごとに評価を行うとともに、総合評価を実施します。事業プロセスごとの評価は、主に次の評価基準によって実施します。

#### (3) 評価の公開

評価結果については、ホームページ等により、広く区民等に公開し、事業の透明性を図り、更なる協働の推進に結びつけていきます。事業実施団体と区担当課は、評価の結果により、課題が明らかになった場合には、双方の活動や事業の実施に反映していくことが必要です。

協働事業の評価にあたっての主な着眼点（2年目以降用）

大項目	評価にあたっての主な着眼点
計 画	前年度の問題点や課題を翌年度の計画に反映しているか
	効果・成果の指標（効果を確認するための指標）の設定は適切か
実 施	年間スケジュールに沿った実施がなされたか （なされていない場合は、合理的な理由があるか）
	意見交換や情報共有は十分に図りながら実施されたか
	お互いの先駆性や専門性を活かした役割分担がなされたか
	協働の効果を発揮した事業実施がなされたか
結 果	効果・成果の指標は達成できたか （できていない場合は、合理的な理由があるか）
	アンケート等により受益者の意見集約はなされたか
	区民や地域社会への効果や成果が発揮できたか
	地域課題や社会的課題への効果や成果が発揮できたか
改 善	問題点や課題は適切に把握できているか
	受益者の意見の分析や把握はできているか
	課題に対する改善策の検討がされているか、適切な対策となっているか

◎評価指標

- ④優れている、③適切である、②課題はあるが、ほぼ適切である
- ①不十分であり改善が必要、○その他

## 4 評価の対象

### (1) 評価対象団体等

- ① 協働事業提案制度による事業実施団体(特定非営利活動法人、市民活動団体・ボランティア団体などの社会貢献活動団体。)
- ② 区の事業担当課

### (2) 評価対象事業

協働事業提案制度による令和元年度実施の1事業  
平成28年度に採択した実施3年目の1事業

### (3) 評価対象期間

平成30年4月～令和元年6月

(平成30年度実施結果、令和元年度事業計画・6月末までの実施状況)

### (4) 評価の実施経過

平成31年 1月～3月	事業実施団体と区に自己点検・相互検証シート作成依頼 事業実施団体と区がそれぞれに自己点検を実施 事業実施団体と区が自己点検の結果をもとに意見交換し、相互検証を実施
令和元年度 5月21日	協働事業実施事業報告会(於:新宿区役所本庁舎) ○地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト
6月25日	第5回協働支援会議 ◆ヒアリング 28年度採択1事業
7月23日	第6回協働支援会議 ◆評価内容の調整・審議 ◆評価書作成
8月2日	第7回協働支援会議 ◆評価結果のまとめ

## 5 協働事業評価実施事業

【平成 28 年度に採択、実施 3 年目の事業】

事業名	「地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト」	ヒアリング 実施日	令和元年 6 月 25 日
実施者	実施団体	特定非営利活動法人 メディカルケア協会	
	区担当課	健康部健康づくり課	
事業目的 概要	区民を中心とした多様な主体が担い手「ごっくんリーダー」として、能動的・継続的に参画することで、自分自身を含む高齢者の「食べる力の維持向上」、「高リスク者の早期発見、適切な支援」につなげていけるよう、基盤と支援体制を構築することを目的として、区民への普及啓発、担い手となる人材		
現在調整中			
課題	<p>対策を講じられるように、一般区民に向けた効果的な普及啓発方法が課題となっている。</p> <p>こうした課題には、区や医療・介護サイドからの情報発信だけでは限界があるため、区民を中心とした多様な主体が普及啓発活動の担い手「ごっくんリーダー」として参画して、能動的・継続的に活動を広げていく必要がある。</p>		
目標・成果	<p>2年目の検証結果に基づき、モデル地区以外の地域においても普及啓発活動を実施し、「ごっくんリーダー」募集を拓げていく。普及啓発では、区民が受講しやすい環境を整えるため、地域性を考慮し、身近な地域で受講できるようにごっくん体操講習会の年間スケジュールを調整し実施していく。また、過去2年間で作成したDVD・CDや歌詞幕・ごっくんリーダー手帳等の各種ツールを活用して、実施団体の活動環境に応じた活動を継続できるように、各実施団体に提案を行っていき、「ごっくん体操」の地域内での浸透を一層深めていく。口腔機能向上の確認のための「最長発声持続時間」等のアウトカム指標をもとに効果的な事業実施を行う。</p>		

上記記載内容は、契約書等ヒアリング資料をもとに作成

## 6 協働事業の評価結果

地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト

### ● 総合評価

C

- A 協働事業として優れている
- B 協働事業として適切である
- C 一部改善の必要があるが、おおむね適切である
- D 協働事業として改善が必要である
- E 協働事業としては不十分である

### ・総合評価コメント

現在調整中

● 項目別評価

4 = 優れている 3 = 適切である 2 = 課題はあるがほぼ適切である

1 = 不十分であり改善が必要

大項目	評価にあたっての主な着眼点	個別評価	項目別評価
計 画	前年度の問題点や課題を翌年度の計画に反映しているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	2
	効果・成果の指標（効果を確認するための指標）の設定は適切か	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
実 施	年間スケジュールに沿った実施がなされたか（なされていない場合は、合理的な理由があるか）	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	3
	意見交換や情報共有は十分に図りながら実施されたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	お互いの先駆性や専門性を活かした役割分担がなされたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	協働の効果を発揮した事業実施がなされたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
結 果	効果・成果の指標は達成できたか（できていない場合は、合理的な理由があるか）	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	3
	アンケート等により受益者の意見集約はなされたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	区民や地域社会への効果や成果が発揮できたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	地域課題や社会的課題への効果や成果が発揮できたか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
改 善	問題点や課題は適切に把握できているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	2
	受益者の意見の分析や把握はできているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	
	課題に対する改善策の検討がされているか、適切な対策となっているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	

・項目別評価コメント

協働事業評価項目	
計画 評価点 3	
実施 評価点 3	現在  調整中
結果 評価点 3	
改善 評価点 2	

## 【参考資料】

協働事業自己点検シート（様式） P

協働事業相互検証シート（様式） P

ヒアリング時提出資料

地域の担い手「ごっくんリーダー」による

「食べる力」推進プロジェクト

P



# 《協働事業自己点検シート》 2年目以降用

記入日	記入者	記入責任者
	※どちらかをチェックしてください 団体 <input type="checkbox"/> 区担当課 <input type="checkbox"/>	氏 名： 連絡先：

事業名			
事業の実施者	団 体		
	区担当課		

**\* 事業の取組みを4段階で評価してください。**

4 = 目標を越えて達成できた（十分に達成できた）    3 = 達成できた  
 2 = 一部課題はあるが、概ね達成できた    1 = 不十分であり、課題が残った

## I 協働事業の実施

(1) 事業の取組状況を評価してください。

項 目		評 価			
Q1	年間スケジュールに沿った実施がなされたか。	4	3	2	1
Q2	お互いに対等な立場で意見交換を行い、情報共有を図れたか。	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由を記入してください。課題があった場合や達成できなかった場合の理由、当初の計画を超えた成果があった場合は、その内容を記入してください。					

(2) 協働の効果を評価してください。

項 目		評 価			
Q3	お互いの先駆性や専門性を活かした役割分担がなされたか。	4	3	2	1
Q4	協働の効果を発揮した事業実施がなされたか。	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由を記入してください。課題があった場合や達成できなかった場合の理由、当初の計画を超えた成果があった場合は、その内容を記入してください。					

## II 協働事業の結果

現段階における結果（見込み）を評価してください。

項 目		評 価			
Q5	効果・成果の指標（効果を確認するための指標）は達成可能か。	4	3	2	1
Q6	アンケート等により受益者の意見集約に努めたか。	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由を記入してください。課題があった場合や達成できなかった場合の理由、当初の計画を超えた成果があった場合は、その内容を記入してください。					

## III 協働事業の効果・成果

提案時に「期待される成果」としていた事項を評価してください。

項 目		評 価			
Q7	区民や地域社会へ効果や成果が発揮できたか。	4	3	2	1
Q8	地域課題や社会的課題へ効果や成果が発揮できたか。	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由を記入してください。課題があった場合や達成できなかった場合の理由、当初の計画を超えた成果があった場合は、その内容を記入してください。					

# 《協働事業相互検証シート》 2年目以降用

事業名		
記入日		年 月 日
記入者	団体	・ 団体名 : ・ 記入責任者 氏 名 : 連絡先 :
	区担当課	・ 部署名 : ・ 記入責任者 氏 名 : 連絡先 :

## I 課題や受益者の意見の把握

事業実施にあたって、どのような問題点や課題がありましたか。

--

受益者からどのような意見がありましたか、要因はどのように考えていますか。

--

## II 課題の分析

上記 I で課題として挙げていた事項（受益者からの意見の中で課題として捉えているものも含む）の要因をどのように分析していますか。

## III 改善策の検討

上記 I・II を踏まえて、改善の方向性や改善策を記載してください。

●自由意見

これ以降のページには、ごっくんの  
ヒアリング資料が入ります

令和元年度 新宿区協働事業評価報告書（実施3年目）

令和元年9月発行

印刷物作成番号  
2019-9-2601

編集・発行 新宿区地域振興部地域コミュニティ課管理係  
東京都新宿区歌舞伎町一丁目4番1号  
電話 03-5273-3872

この冊子は、森林資源の保護とリサイクルの促進のため、  
古紙を利用した再生紙を使用しています。